

# 2022 年度事業報告

## 1. 言語力向上に関する事業

### (1) 制度・政策活動

#### ① 学校図書館の人と資料の充実

##### (ア) 学校図書館図書整備等 5 か年計画



12月7日に衆議院第一議員会館多目的ホールにて、院内集会「学校図書館図書等の整備・拡充」と「教科書での紙とデジタルの最適化」を求める各界連絡会を開催。第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づいて図書や新聞の購入、学校司書の配置など学校図書館の充実がさらに進むよう国会議員や関係者に理解を求めた。教科書についてもデジタルに偏重せず、紙とのバランスが重要という認識を確認した。学校図書館議員連盟会長の塩谷立議員と活字文化議員連盟会長の上川陽子議員、両議員連盟事務局長の笠浩史議員ら約150人が参加した。活字の学びを考える懇談会関係者による寄稿冊子「いま、なぜ『紙』の教科書なのか」の紹介も行った。

##### (イ) 学校図書館法公布70周年記念事業



学校図書館法公布70周年にあたる2023年を新たな契機に、学校図書館が自ら学び続ける市民の育成に大きく寄与することを願って、2023年1月12日付でアピール「私たちは学校図書館を応援しています」を発表した(増刷分を含め3,500部発行)。

アピールで提示した図書資料の充実、学校司書の待遇改善などの政策課題をテーマとしたシンポジウムを5月27日に大正大学で開催するほか、8月8日に城西国際大学にて記念式典を開催予定。

#### ② 読書バリアフリー法の具現化

##### (ア) 「読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修」

7月23日に、専修大学神田キャンパスにて文部科学省受託事業「読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修」を実施。公共図書館、学校図書館関係者を対象に、図書館のハード面、ソフト面のバリアフリーについてワークショップを交えた研修を行った。参加者は18名。

##### (イ) ABSC 準備会レポート発行

出版業界と、読書に困難のある障害当事者の相互理解を深めるために不定期で発行

している「ABSC準備会レポート」の第1号を7月、第2号を2023年2月に発行。国内の視覚障害者の推定数や、バリアフリー図書の概要、電子書籍などアクセシブルな書籍の製作に携わる方々へのインタビューを掲載している。

※「アクセシブル・ブックス・サポート・センター(ABSC)準備会」は、読書に困難のある人に対して出版界ができること、すべきことを明らかにしていくとともに、各出版者の取り組みを応援することを目的として日本出版インフラセンター(JPO)内に設置されている組織。当機構も準備会の一員として協力している。

## (2) 言語活動の基盤整備

### ① 学校教育のデジタル化に関する提言

「活字の学びを考える懇談会」関係者による寄稿冊子「いま、なぜ『紙』の教科書なのか」を500部作成し、配布(9月)。その後増刷し、計2,500部を発行。

### ② SARTRAS助成事業

SARTRAS(一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会)に、著作権及び著作権隣接権の保護に関する事業・著作物の創作の振興及び普及に資する事業として、次の2事業への助成を申請し、実施した。

#### (ア) 朗読指導者養成講座 初心者研修&フォローアップ講座「広げよう！朗読の輪」

朗読及び読書推進活動に関心のある方々を対象に、朗読の題材となる著作物の適切な利用について伝え、朗読指導技術・意欲の向上にもつながる3編の動画を制作。当機構YouTubeチャンネルにて2023年4月に公開し、1年間配信。3編の動画の合計再生回数 約6,600回(公開から2か月時点)。

#### (イ) 視覚障害者等への読書活動推進事業「学校図書館における読書バリアフリーセミナー」

視覚障害者等の読書活動の充実を目的として、学校図書館での支援のあり方や、「アクセシブルな書籍」の製作・提供に関わる著作権への理解を深められるセミナーを開催。また、セミナーのアーカイブ動画(2023年4月公開)や啓発リーフレットで情報を発信し、広く普及を図った。再生回数 約1,100回(公開から3か月時点。ライブ配信版・アーカイブ版・字幕版の動画の合計)。

## 2. 人材育成・能力開発に関する事業

### (1) 読書推進活動

#### ① 子どもの読書活動推進事業

##### (ア) 小学生ビブリオバトル・ワークショップ

活字文化推進会議との共催で7月31日にMARUZEN&ジュンク堂渋谷店にて小学生ビブリオバトル・ワークショップを行った。参加者15名。当日の様子を収録した普及動画を作成、10月に公開。再生回数 約2,200回(公開から8か月時点)。



(イ) 読書活動推進事業（主催：国立青少年教育振興機構）

読書活動と体験活動の重要性を伝える指導者向け研修(4会場)及び親子向け体験活動(4会場)を開催。

【国立大雪青少年交流の家(北海道上川郡美瑛町)】

・9月3日「絵本でジオ教育！ in 大雪」(指導者向け研修)

第1部は秋田大学大学院特別教授の林信太郎さんに「ジオパークと大地の恵み」と題し、実験を交えた講演をいただいた。第2部は絵本専門士によるジオパークと絵本のプログラムを考えるワークショップをおこなった。参加者10名、オンライン配信参加者44名。



・10月1日～2日「絵本で体験！ ジオパークの世界 in 大雪」(親子向け体験活動)

秋田大学大学院特別教授の林信太郎さんを迎え、十勝岳の成り立ちや特徴を学びながら、絵本や実験を通してジオ教育の面白さを体感した。参加者40名。

【国立妙高青少年自然の家(新潟県妙高市)】

・9月19日「絵本で森の環境教育！ in 妙高」(指導者向け研修)

第1部は絵本作家の鈴木まもるさんの「絵本と鳥の巣の不思議」と題した講演と鳥の巣作りワークショップを、第2部は絵本専門士による自然体験と絵本のプログラムを考えるワークショップを行った。参加者36名。



・11月12日～13日「絵本の森で見て作って遊ぼう！ in 妙高」(親子向け体験活動)

絵本専門士による読み語りや施設内の森林での自然遊び、絵本作家の鈴木まもるさんの鳥の巣づくりワークショップなどを通して参加した親子に体験活動と読書活動の重要性を伝えた。参加者51名。

【国立夜須高原青少年自然の家(福岡県朝倉郡)】

・11月23日「絵本で世界を学ぶ in 夜須高原」(指導者向け研修)

第1部では絵本作家のスギヤマカナヨさんによる「絵本でつなぐ世界の輪」をテーマとした講演。第2部はブラジル、インドネシア出身の講師による国や地域の文化を楽しく学ぶワークショップと、絵本専門士による絵本のプログラムを考えるワークショップを行なった。参加者28名。

・12月17日「絵本と一緒に世界一周 in 夜須高原」(親子向け体験活動)

絵本を通して多様な文化に親しみながら社会とのつながりや国際理解の意識を養う体験活動を行なった。参加者30名。 ※悪天候のため、宿泊型から日帰り型に日程変更

【国立淡路青少年交流の家(兵庫県南あわじ市)】

・12月4日「絵本で防災教育 in 淡路」(指導者向け研修)

第1部では「絵本を通して防災・減災を伝えること」をテーマに絵本作家の金澤麻由子さんと絵本専門士でアナウンサーの古賀涼子さんが対談。第2部では絵本専門士による防災・減災教育と絵本のプログラムを考えるワークショップを行なった。参加者20名。

- ・1月14日～15日「絵本と体験の2日間！あそぼうさい・まなぼうさい in 淡路」(親子向け体験活動)  
親子で防災・災害絵本のおはなし会、毛布担架やロープワーク、防災工作、ペットボトルろ過機づくりなど、様々な防災ワークに挑戦するプログラム。絵本の世界を楽しみながら、いざという時にも使える様々な技術を伝えた。参加者49名。



(ウ) 絵本と一緒に！お手紙あそび ～保育の現場やご家庭でたのしもう！～



郵便文化と文字活字文化の普及を目的として、絵本とお手紙遊びの有効性を伝える講演やお手紙遊びのワークショップ、お手紙絵本の紹介と読み聞かせのコツを紹介する3編の動画「絵本と一緒に！お手紙あそび」を当機構YouTubeチャンネルで2023年2月に公開した(協賛:日本郵便株式会社)。3編の動画の合計再生回数 約2,300回(公開から4か月時点)。

② 学生・ビジネスパーソンの読書応援

日経・文字活字シンポジウム(オンライン)

日本経済新聞社との共催で「戦争・コロナの先 文学で世界をよむ」をテーマとして、翻訳家の鴻巣友季子さんと作家の佐藤賢一さんによる対談を実施。10月に日経チャンネルで動画を公開した。申込者508名。

③ 高校生ビブリオバトル

高校生書評合戦(ビブリオバトル)東京都大会

東京都教育庁との共催で10月30日、帝京平成大学にて開催。チャンプ本に『オーデュボンの祈り』(伊坂幸太郎、新潮社)、準チャンプ本に『ボトルネック』米澤穂信、新潮社)が選ばれた。大会では作家の額賀滯さんによる高校生に向けた講演も行なった。高校生による書評合戦(ビブリオバトル)の普及・啓発を目的にリーフレットを作成し、都内の高等学校に20万部を配布。なお、今年度から読売新聞社主催のビブリオバトル中学生・高校生・大学生の各大会を後援。



## (2)人材育成・能力開発に関する事業

### ① 朗読指導者養成講座

アナウンサーの山根基世さんを講師に、朗読を通して地域のつながりや子どもの言葉を育てる活動の核になる朗読指導者の育成を目的とした講座を開催。

2021年4月に開講した第6期は9月10日のやまねこ朗読発表会をもって修了。修了生28名。聴講者121名。



### ② 自ら動き出す防災・減災教育を考える集い

絵本専門士の読み語りと有識者のシンポジウムを8月5日曳舟文化センターで開催した。また、8月1日～7日に墨田区立ひきふね図書館で防災・減災を考える絵本『うみといきる』の原画展を行った。シンポジウム参加者60名。原画展動員数のべ300名。



## 3. 情報提供・広報活動に関する事業

ニュースレター(8号～12号)、パンフレット(2022年7月版)の発行、研修会等のチラシ発行やホームページの更新、SNS(twitter)を随時発信。

また、個人情報の取扱いを適切に行なっている団体、企業に付与される「プライバシーマーク」取得に向けて2021年度から取組んできたが、11月22日、日本産業規格JISQ15001「個人情報保護マネジメントシステム」に適合している旨が認証され、同マークを付与された。